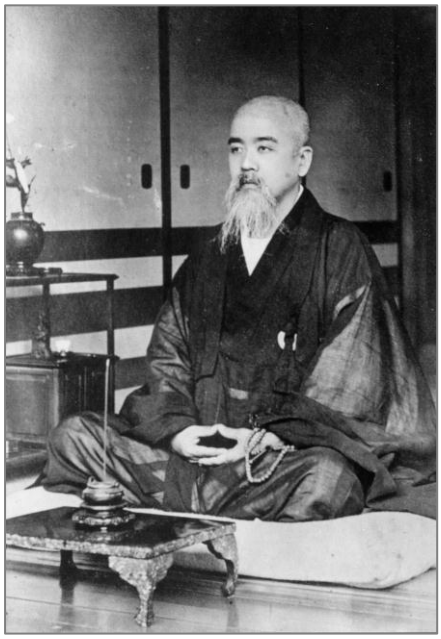
堺市立中央図書館　地域資料　ミニ展示とブックフェア

平成 28 年 10 月 26 日（水）～11 月 6 日（日）

慧海（えかい）と堺

河口慧海　生誕１５０年！



▲河口慧海肖像（堺市博物館蔵）

●河口　慧海（かわぐち　えかい）

［慶応 2 年(1866 年)～昭和 20 年(1945 年)］

河口慧海は堺山伏町（現在の堺区北旅籠町西３丁）に生まれ、幼少期は清学院付属の寺子屋「清光堂」や錦西小学校、堺戎之町にあった土屋弘（ひろむ）の晩晴塾に学びました。

慧海は、仏教の原典を求めて日本人で初めてヒマラヤを越え、鎖国下のチベットに入国しました。帰国後に刊行された『西蔵旅行記』は、仏教学者だけではなく民族学者、探検家にも高く評価され英訳も出版されました。

河口慧海の生誕１５０年となる本年、慧海の人と事業、さらには慧海を生んだ堺の地に焦点をあてた展示が、堺市立町家歴史館清学院・山口家住宅、堺市博物館などで開催されます【平成 28 年 10 月 26 日(水)～12 月 4 日(日)】

図書館でも慧海に関する資料を多数所蔵しております。ぜひ、この機会に関連資料をご覧いただき、慧海をより身近に感じていただきたいと思います

西蔵旅行記

以下、著者名表記がない資料は河口慧海による著書です

仏典を求めて、鎖国下のチベットに日本人として初入国を果たした慧海の道中記は、チベットの風俗の記録としても第一級の資料ですが、「旅行記」というのんびりした題名からは想像できないスリリングなノンフィクションでもあります。日本・インドでの周到な準備、ヒマラヤの寒さや盗賊・野生動物に悩まされる艱難辛苦の道中、チベット人を名乗りラサに潜入した後の活躍と脱出劇･･･読みやすい抄録も出版されていますので、この機会に、ぜひ、手に汗にぎる読書体験を味わってください！

・**『チベット旅行記』**　講談社（講談社学術文庫）　2015（全 2 巻）、1978～79（全 5 巻）
・**『チベット旅行記』**　長沢和俊/編　白水社　2004（全 2 巻）、1980
・**『チベット旅行記抄』**　金子 民雄／監修　中央公論社（中公文庫 BIBLIO）　2004
・**『河口慧海著作集』1、2**　松濤 誠達ほか／監修　うしお書店 1998～99
・**『チベット旅行記』上・下**　グーテンベルク 21　2000　**←電子書籍です**

・**『河口慧海日記　ヒマラヤ・チベットの旅』**奥山直司/編　講談社（講談社学術文庫）2007
近年慧海の遺族宅で発見された、慧海が第一回チベット旅行中に綴った日記。『チベット旅行記』では省略されている地名や一日に歩いた距離、出発・到着時間などが克明に記されており、慧海のヒマラヤ越えにまつわる謎の解明につながりました。

・**『第二回チベット旅行記』**　講談社（講談社学術文庫）　1981
大正 2(1913)年から 4 年にわたってチベット再訪し、様々な仏典を集めて日本に帰国を果した記録です。前半はおおまかな旅行行程をしるし、後半の雪山歌（せつざんうた)旅行からは詳細な旅行記。第一回ほど危険な旅ではなかったせいかあまり緊迫感はありませんが、わずか十数年でチベットの文化風俗が変わってしまったことがよく分かります。

●**『西蔵(チベット)旅行記』上巻・下巻　博文館　1904**

《館内閲覧のみ可能》
明治 36(1903)年の河口慧海のチベット探検からの帰国後、口述筆記によって新聞連載されたものが評判になって、翌年上下巻の単行本として出版されたものです。

●**『Three Years in Tibet』**Theosohical Publishing Society 1909

《館内閲覧のみ可能、事前申請要》
慧海のチベット探検は、海外でも高く評価されました。慧海の『西蔵旅行記』の英訳である本書は、帰国 6 年後にインド・マドラスおよびロンドンで出版されました。

河口慧海の著作

慧海は、2回目のチベット入境において、ネパールの梵語仏典や多くのチベット語仏典を集めることに成功しました。帰国後は経典の翻訳や研究、仏教やチベットに関する著作を続け、のちに僧籍を返上し、ウパーサカ（在家）仏教を提唱しました。また大正大学教授に就任し、チベット語の研究にも大きく貢献しました。

● **『平易に説いた釈迦一代記』**　金の星社　1929　《館内閲覧のみ可能》

それまでの釈迦の伝記は難しいものが多く、また読みやすいものは荒唐無稽で、釈迦の徳を傷つけているものが多い状況でした。慧海は、梵語の原典、チベット語訳、漢訳の釈迦の伝記を比較し、インド仏蹟の地理と照合してわかりやすく記述しました。

● **『正真仏教』**　古今書院　1936　《館内閲覧のみ可能》

『在家仏教』『菩薩道』等に記述した所説を根幹として整理統統合し、さらに推敲を加えたもので、釈迦の正法を高揚したものです。

慧海の後半生の主張はこの一書に要約されています。

★どちらも、下記**『河口慧海著作集』『河口慧海著作選集』**に収録されており貸出できます。

・**『河口慧海著作集』第１巻～１７巻、別巻１～３**　うしお書店　1998～2004

補巻１～３　USS出版　2010～2011

「著者自身が認めた著書及び論文を網羅し、分野別発表年代順」、「発表当時の雰囲気と姿をそのまま伝えるように」という編集方針で刊行され、慧海研究には欠かせないシリーズです。**博文館の『西蔵旅行記』（1904）**もこの著作集１、２巻で復刻されています。別巻２は横幅が40cm以上ある大型本で、**『西蔵旅行絵巻』**などの図版や写真が多数収録されています。

・**『河口慧海著作選集』１～12**　慧文社　2009～2016

「厳選した名著を、読みやすい改訂新版として刊行」するという編集方針で刊行されており、以後も続刊が予定されています。

チベット・ポタラ宮　水野智典氏撮影

河口慧海をもっと知るために

末尾の９ケタの番号は堺市立図書館のバーコード番号です

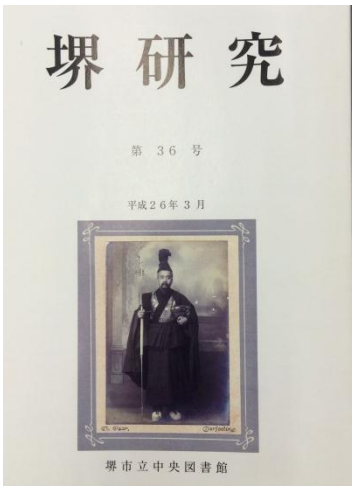
伝記・評伝・研究

・**『遥かなるチベット　河口慧海の足跡を追って』**
根深誠/著　中央公論社（中公文庫）　1999　【190149674】
・**『河口慧海　日本最初のチベット入国者』**（新版）河口正/著　春秋社　2000　【190155986】
・**『伯父河口慧海の思い出』**　宮田恵美　2004　【401170576】
・**『評伝河口慧海』**　奥山直司/著　中央公論新社（中公文庫）　2009　【190418442】
・**『河口慧海への旅　釈迦生誕地に巡礼した人びと』**高山龍三/著　勉成出版　2011　【190428516】

博物館展示図録

・**『河口慧海　仏教の原点を求めた人』**　堺市博物館/編　堺市博物館　1993　【190076950】
・**『チベット　はるかなる憧憬』**　東北大学総合学術博物館　2004　【190348029】

堺区北旅籠町の樽職人の長男に生まれた15歳の定治郎（のちの慧海）は、一人の少年に出会いました。同い年で北旅籠町の商家肥下家の跡取り駒次郎、のちの肥下徳十郎（1866～1915）です。二人は友情を深め、漢学塾「晩晴書院」にも一緒に通いました。肥下徳十郎は、終生、慧海の活動を献身的に支え、共に夢を追いました。



「河口慧海の手紙　―肥下徳十郎他宛―」奥山 直司
―『堺研究』第36号
（堺市立中央図書館／編集　2014【190518944】）所収
肥下徳十郎の子孫宅に伝わる書簡等の翻刻・解説です。
心許せる友に宛てた書簡には、慧海の真情があらわされています。

平成28年10月
堺市立中央図書館／発行
〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
TEL　072-244-3811
FAX　072-244-3321